

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	膵癌腹膜播種に伴う利尿薬抵抗性悪性腹水に対する腹腔静脈シャント留置後の臨床成績および播種性血管内凝固の検討
	研究対象者	2020 年 9 月から 2026 年 9 月までに当センター消化器内科において、膵癌腹膜播種に伴う難治性悪性腹水に対して腹腔静脈シャント留置術を実施した方（50 例）
	研究目的	膵癌の腹膜播種に伴う悪性腹水は、腹部膨満、食欲低下、呼吸苦などを来し、患者の quality of life（QOL）を著しく低下させる。利尿薬投与や腹水穿刺を行っても十分な症状改善が得られない難治性悪性腹水に対して、腹腔静脈シャントは治療選択肢の一つである。腹腔静脈シャントは腹水を静脈系へ還流させることで症状緩和や退院、化学療法再開につながる可能性がある一方、播種性血管内凝固（disseminated intravascular coagulation：DIC）などの重篤な合併症を生じることがある。しかし、膵癌腹膜播種患者に限定した腹腔静脈シャントの治療成績や留置後 DIC の実態に関する報告は限られている。本研究では、腹腔静脈シャント留置後の臨床成績および DIC の発生状況を明らかにし、適切な患者選択と安全な周術期管理に資する知見を得ることを目的とする。
	研究方法	2020 年 9 月から 2026 年 9 月までに当センター消化器内科において、膵癌腹膜播種に伴う難治性悪性腹水に対して腹腔静脈シャント留置術を実施した約 50 例を対象とする単施設後ろ向き観察研究である。電子カルテおよび診療記録から患者背景、治療内容、臨床経過、有害事象などの診療情報を後方視的に収集し、腹腔静脈シャント留置後の臨床成績および播種性血管内凝固（DIC）の発生状況について検討する。
	個人情報保護	提供される患者さんの診療情報は、容易に個人を特定できないように匿名化して使用させていただきます
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 1 0 月 1 3 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[☒] 総長が研究実施を許可した日 [☐] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[☐]	[☐]血漿、[☐]血清、[☐]全血、[☐]末梢血から抽出した DNA、 試料: [☐]病理検体(具体的に記載:_____)、 [☐]尿、[☐]糞便、[☐]唾液、[☐]胸水、[☐]腹水、[☐]脳脊髄液、 [☐]毛髪、[☐]その他(具体的に記載:_____)
	[☒]	[☒]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[☒]年齢、[☐]生年月日、[☒]性別、[☐]既往歴、[☐]併存疾患、[☐]外来日・入院日・退院日、[☒]臨床検査値、[☐]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[☒]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[☐]ゲノムデータ、[☐]看護記録、[☐]その他(具体的に記載:_____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	消化器内科 戸塚 雄一郎
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター 消化器内科 戸塚 雄一郎 045-520-2222（代表） 利用停止のお申し出は 2027 年 9 月 30 日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります